

(様式B)

体験活動推進プロジェクト「自然体験活動指導者養成事業」
実績報告書

<事業実施主体について>

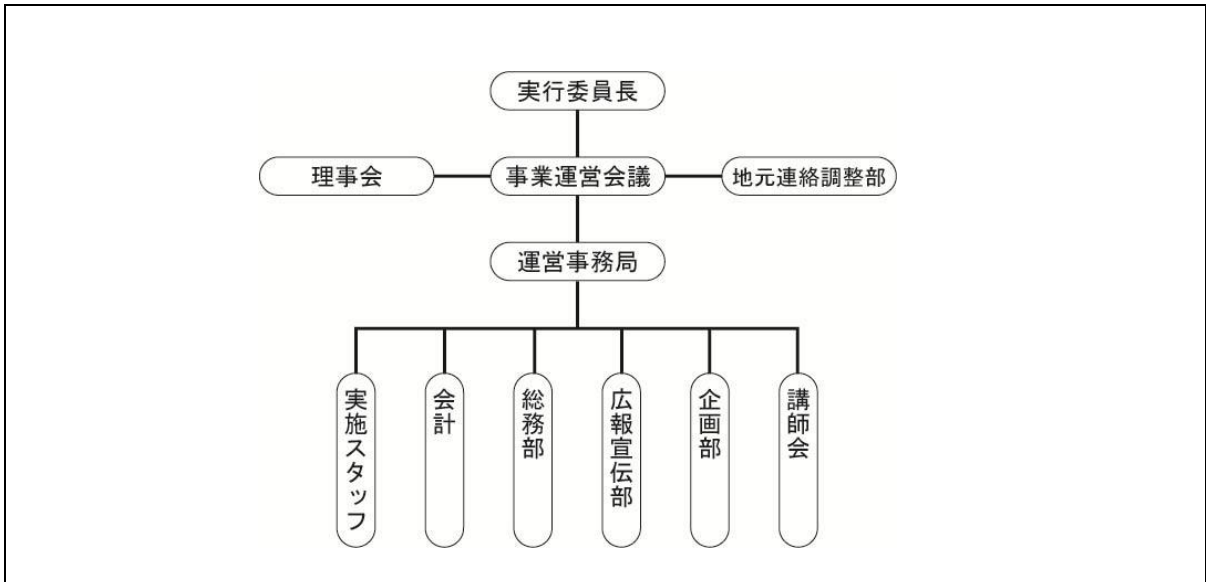
1. 団体名	NPO法人 浅間・吾妻エコツーリズム協会		
2. 代表者役職・氏名	理事長 赤木道紘		
3. 団体住所	〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原932番地A棟		
4. 団体電話番号 F A X	TEL : 0279-97-1216	FAX : 0279-97-1216	
5. U R L	http://ecotourism.or.jp/		
6. 連絡担当窓口	氏名（ふりがな）	赤木道紘	
	所属部署・役職名	理事長	
	電話番号・F A X	TEL : 0279-97-1216	FAX : 0279-97-1216
	Eメールアドレス	nature-akagi@ecotourism.or.jp	

<事業内容について>

1. 運営体制

※図示も可

※都道府県等が再委託する場合は、直轄と再委託の役割分担を明確に示すとともに、再委託の必要性について記入すること。



2. 事業実績

期 日 (期 間)	会 場 (都道府県)	事業内容	養成 人数
11月25～27日 (3日間、日帰 り)	孀恋会館 (群馬県)	全体指導者研修会の実施	26名
11月26日 (日帰り)	孀恋会館 (群馬県)	補助指導者研修会の実施	5名
1月24～26日 (3日間、日帰 り)	孀恋会館 (群馬県)	全体指導者研修会の実施	25名
1月25日 (日帰り)	孀恋会館 (群馬県)	補助指導者研修会の実施	7名
合計			63名

3. 研修内容

※ 研修会を複数回実施した場合は、研修会毎に記入してください。

<研修会名：全体指導者研修会 A>

(1) 対象と募集方法

対象：浅間山麓・西吾妻の自然や地域風土を活かしたエコツアーガイドや自然体験イベントの企画運営に興味・関心があり、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思がある18歳以上の方

募集方法：インターネット宣伝、チラシ配布、チラシ配置、教育委員会への協力依頼など

(2) 内容

■11月25日～27日に実施した全体指導者研修会の内容

項目	内容	時間
学校教育における体験活動の意義	【講義】『学校教育における体験活動の意義』 講師：山本茂（六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局）	1
教育課程と体験活動の関連性	【講義】『教育課程と体験活動の関連性』 講師：山本茂（六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局）	1
プログラムの企画立案	【講義】『自然と人、社会、文化のかかわり』 講師：下谷通（孀恋村役場会計課長、孀恋村郷土研究家）	2
プログラムの企画立案	【講義】『浅間北麓の大地に生きる～特産の高原キャベツを巡るあれこれ～』 講師：松本もとみ（農家、おちょんきねっと代表）	2
プログラムの企画立案	【講義演習】『プログラムづくりの基礎知識』 講師：堀江博幸（Asama Field Network 代表）	1
自然体験活動の技術	【講義】『自然の理解』 講師：赤木道紘（浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長）	3

自然体験活動の技術	【講義実習】 『登山基礎講座』 講師：齊梧伸一郎（自然の学校もちづき代表）	2
体験活動の指導法	【講義演習】 『浅間火山学習エコツアーガイド術』 講師：荒牧重雄（東京大学名誉教授）	3
体験活動の指導法	【講義演習】 『対象となる参加者を知る』 講師：堀江博幸（Asama Field Network代表）	2
安全管理	【講義実習】 『普通救命講習』 講師：消防署嬭恋分署職員	3
安全管理	【講義実習】 『現場の応急手当て術』 講師：赤木恵美子（藤岡総合病院、浅間・吾妻エコツーリズム協会理事）	1
安全管理	【講義実習】 『リスクマネジメント・ワークショップ』 講師：齊梧伸一郎（自然の学校もちづき代表）	1
自然体験活動の理念	【講義】 『自然体験活動の理念』 講師：赤木道紘（浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長）	1
		計 23

<研修会名：全体指導者研修会A>

(1) 対象と募集方法

対象：浅間山麓・西吾妻の自然や地域風土を活かしたエコツアーガイドや自然体験イベントの企画運営に興味・関心があり、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思がある18歳以上の方
募集方法：インターネット宣伝、チラシ配布、チラシ配置、市町村役場への協力依頼など

(2) 内容

■1月24日～26日に実施する全体指導者研修会の内容

項目	内容	時間
学校教育における体験活動の意義	【講義】 『学校教育における体験活動の意義』 講師：山本茂（六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局）	1
教育課程と体験活動の関連性	【講義】 『教育課程と体験活動の関連性』 講師：山本茂（六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局）	1
プログラムの企画立案	【講義】 『自然と人、社会、文化のかかわり』 講師：下谷通（嬭恋村役場会計課長、嬭恋村郷土研究家）	2
プログラムの企画立案	【講義】 『浅間北麓の大地に生きる～特産の高原キャベツを巡るあれこれ～』 講師：松本もとみ（農家、おちょんきねっと代表）	2
プログラムの企画立案	【講義演習】 『プログラムづくりの基礎知識』 講師：堀江博幸（Asama Field Network 代表）	1
自然体験活動の技術	【講義】 『自然の理解』 講師：赤木道紘（浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長）	3
自然体験活動の技術	【講義実習】 『登山基礎講座』 講師：齊梧伸一郎（自然の学校もちづき代表）	2
体験活動の指導法	【講義演習】 『スノーシューエコツアーのいろは』 講師：赤木道紘（浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長）	3

体験活動の指導法	【講義演習】 『対象となる参加者を知る』 講師：堀江博幸 (Asama Field Network代表)	2
安全管理	【講義実習】 『普通救命講習』 講師：消防署孺恋分署職員	3
安全管理	【講義実習】 『現場の応急手当て術』 講師：赤木恵美子 (藤岡総合病院、浅間・吾妻エコツーリズム協会理事)	1
安全管理	【講義実習】 『リスクマネジメント・ワークショップ』 講師：齊梧伸一郎 (自然の学校もちづき代表)	1
自然体験活動の理念	【講義】 『自然体験活動の理念』 講師：赤木道紘 (浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長)	1
		計 23

<研修会名：補助指導者研修会>

(1) 対象と募集方法

対象：浅間山麓及び、吾妻地域の自然を愛する18歳以上の自然案内、野外活動に興味のある健康な男女
募集方法：インターネット宣伝、チラシ配布、チラシ配置、教育委員会への協力依頼など

(2) 内容

■補助指導者研修会の内容 (11月26日、1月25日共に同じ内容)

項目	内容	時間
学校教育における体験活動の意義	【講義】 『学校教育における体験活動の意義』 講師：山本茂 (六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局)	1
教育課程と体験活動の関連性	【講義】 『教育課程と体験活動の関連性』 講師：山本茂 (六合村小学校元校長、六合村の文化を守る会事務局)	1
プログラムの企画立案	【講義】 『浅間北麓の大地に生きる～特産の高原キャベツを巡るあれこれ～』 講師：松本もとみ (農家、おちょんきねっと代表)	2
自然体験活動の理念	【講義】 『自然体験活動の理念』 講師：赤木道紘 (浅間・吾妻エコツーリズム協会理事長)	1
		計 5

4. 企画・運営・広報に当たって工夫・留意した事項

(1) 企画

地域に根差した活動を行っている、現役世代の方々に講師になっていただくように努めた。また、研修の早い段階の講座で受講者交流型のアイスブレイクやワークショップを行うことで、受講者の緊張を解き、また仲間意識が生まれるように工夫した。

(2) 運営

特になし

(3) 広報

インターネット分野ではありとあらゆる掲示板、Mixi、Facebook、Twitter 等に投稿した。また、研修会のチラシは、地元の多くの庶民の方々の目に触れそうなところ、スーパーやコンビニ、温泉浴場などを12日間かけて回り、頼み込んで置いていただいた。

5. 成果と課題

地域社会の経済と結の環で営み、根差した活動を行っている、現役世代の方々に講師になっていただいたことが功を奏し、今回の受講生は地元の現役世代の方々の割合が多かった。これにより、これまで、「訪れる学生生徒達に自然体験活動を教えるという事は、時間とお金に余裕がある移住者や定年退職者に任せておけばよい」という意識は変化するのではないかと期待している。実際に「子ども農山漁村交流プロジェクト」が動いた場合、当地の経済循環や人のつながりと無関係である者が学生生徒に指導するでは、わざわざ当地に来る必要など無いからである。現役世代の方々が、自分の仕事と自然体験活動の指導とを関連付け、「自分だったらこんな指導ができる」「地域のこういう文化を教えたい、風景を見せたい」という具体的なことを考え、準備する事により、当地の風を体感できる自然体験活動の提供が見えてくるのである。今回、地元の現役世代の方々が複数受講してくださったことは大きな成果である。

課題としては地域を特徴づける最大の第一次産業であるキャベツ農家は、シーズン中は忙しくてとても民泊は不可能であり、また大規模経営ゆえに農作業の手伝いも無理だということである。もちろん、ハイキングやゲーム、木工体験など、工夫して代替メニューで対応すればよいのだが、【孀恋＝キャベツ】のイメージが定着している事もあり、キャベツ体験が提供できないことは、事情を知らないクライアント（学校など）は理解に苦しむだろう。

また、当協会はインターネットにより集客宣伝をしており、体験指導依頼もEメールのメーリングリストで告知募集をしているので、地域の歴史伝統文化の生き証人である長老たちは当協会の事業と関わる事がほとんどできない状況にある。しかし、クライアントからの問い合わせのたびに長老方もしくはEメールアドレスを持たない受講生達に電話で「こういう条件ですがあなたは何が指導できますか？」と聞いて集約しているような余裕や時間はともありません。国が「子ども農山漁村交流プロジェクト」をもっと強い指導力で地方自治体に働きかけ、小学校長期宿泊体験活動を受入れざるを得ない状況に仕向けてくれれば、村役場がアナログ世代とデジタル世代の間に入ってくれたり、コーディネーションをしてくれたりする可能性も出てくると思います。

6. 事業の様子

